

41. 当院における褥瘡対策委員会リハビリ部門の役割の紹介と考察

公立みつぎ総合病院

○平本 知佳子 (OT), 小榮 浩次 (OT), 渋谷 晋太郎 (OT)

【はじめに】

当院は 240 床の急性期、回復期、療養病棟を有する総合病院である。入院患者は高齢者が多く、褥瘡を有した患者や褥瘡のリスクが高い患者が増加している。リハビリ部門が褥瘡対策委員会に関わり始めて 5 年が経過した。平成 21 年より褥瘡対策委員 (以下、委員) を増員し、業務を見直して褥瘡治療や予防への対策について積極的に関わる手段を模索している。今回は、褥瘡対策委員会リハビリ部門の役割の変遷と現在の活動内容についてまとめ、症例検討を交えて考察したので報告する。

【当院の現状】

平成 21 年 12 月末の時点で寝たきり率が 47%、褥瘡患者保有率は 4.4%となっている。平成 21 年 4～12 月に病院にて褥瘡が新規発生した患者は 14 人、自宅等より褥瘡を持ったまま入院した患者は 30 人であった。褥瘡保有率は平成 20 年度 6.3%→平成 21 年度 4.9% (12 月現在)、院内での褥瘡発生率は平成 20 年度 43%→平成 21 年度 32% (12 月現在) と減少している。

【褥瘡対策委員会の活動】

・当院の褥瘡対策委員会について
外科医師、看護師、薬剤師、療法士 (OT・PT) で活動しており、褥瘡の処置と評価、治療方針の決定を行う褥瘡回診 (以下、回診) を週 1 回、委員会の開催を月 1 回行っている。

・これまでの活動について

リハビリ部門は平成 16 年度より参加した。当初は褥瘡対策委員会への参加と情報収集目

的で回診に月 1 回参加するのみで、褥瘡患者への対応は今までは担当スタッフのみが行っていた。

・平成 21 年度の活動について

平成 20 年度より、積極的に関わるため、委員を 2 人から 6 人 (OT4 人, PT2 人) に増員し、回診への参加を月 1 回から 2 回へ増やした。そして褥瘡患者を詳細に把握するため、リハビリ部門独自の評価表を作成し導入した。さらに、褥瘡患者のケース検討を担当スタッフと委員が協力して行うようになった。ケース検討後、ポジショニングについて看護師に情報伝達し、写真を用いたポジショニング表を自室に掲示するようにした。

平成 21 年度、褥瘡対策委員会より依頼を受けて個別ケース検討を行った件数は 8 件だった。うち、リハビリ処方につながったケースが 4 件、すでにリハビリで関わっていたケースが 2 件、リハビリ処方がされなかったケースが 2 件だった。

また、ポジショニング用クッション等の福祉用具の数を増やし、看護師や家族への紹介も行うようになった。委員のスキルアップのため院外の研修会へ参加し、院内で勉強会を開催することで他スタッフへの情報伝達を図っている。

【事例紹介】

・症例紹介：A さん。80 歳男性。
・経過：平成 21 年 7 月に食欲不振となり、胃瘻増設目的で入院したが、全身状態が悪化し寝たきりとなり仙骨部に褥瘡が発生した。10 月に担当医の依頼を受けて褥瘡対策委員会が介入した。

・評価：障害高齢者の日常生活自立度：C2，認知症高齢者の日常生活自立度：IV，ALB：1.4 mg/dl，Hb：8.0 mg/dl，OH スケール：9/10点，褥瘡の大きさ：8.0×6.1cm，DESIGN：Du-36点，仙骨部には壊死部があった。

・リハビリの介入内容：褥瘡対策委員会よりポジショニングの依頼を受けてケース検討を行い，体位変換を左右の90度側臥位で行うこととした。ポジショニング方法について看護師へ情報伝達し，自室に掲示した。またリハビリ処方も出された。

・結果：平成21年12月の時点ではALB：1.6 mg/dl，Hb：5.7 mg/dl，褥瘡の大きさ：6.9×4.5cm，DESIGN：D4-17点，壊死部を切除し肉芽が形成され，褥瘡は改善してきていた。しかし平成22年1月に呼吸状態悪化のため，死亡された。

【考察】

褥瘡対策委員会にリハビリ部が積極的に関わるようになったことで実際の褥瘡を目にする機会が増え，より適切なポジショニングを実施できるようになった。また，ポジショニング表の作成と掲示や，定期的にポジショニングのチェックを行うことにより，褥瘡対策委員会のチームとしての役割が認識され，医師や看護師からポジショニングを依頼される件数が増えてきたと考える。ポジショニングは個々の身体機能や姿勢等の評価と福祉用具の選択を行う必要があるため，リハビリ部門の専門性を活かすことができる分野であると考える。さらにリハビリ処方に繋がることで診療報酬が算定できるようになり，経営的利点も考えられる。

【今後の課題】

褥瘡発生率低下を目指し，多職種との密な連携を深め，よりスムーズな情報伝達を図っていく必要がある。体圧分散寝具やポジショニングクッション等の福祉用具を効率的に運

用するため，それらの管理も協働して行っていく必要がある。また，様々なケースに対応できるようスタッフのスキルアップを図るため，勉強会等を実施し学術研鑽を深めていきたい。

【参考文献】

- ・田中マキ子，下元佳子：在宅ケアに活かせる褥瘡予防のためのポジショニング やさしい動きと姿勢の作り方．中山書店，2009
- ・田中マキ子：動画でわかる 褥瘡予防のためのポジショニング．中山書店，2006